

一 次の文章を読んで後の問に答えよ。

「ぐずぐず」とは、決断がつかず決着を引き延ばしているうちに、やがて「自然」に引っぱられ、流されてゆく、そんな予感に包まれたひとのためらいや逡巡を表わす。身を引き裂かれる思いにさらされながら、情けないことにいつまでも決心がつかない。宙ぶらりんのままだから、当然、力が入らない。力が入らないまま、そのだれた姿をそのまま a 晒す。

辛気くさいほど (ア) しているし、なにやら (イ) 言うばかりで、いつまでたっても言い分が見えてこない。そう、「ぐずついた天気」のように (ウ) させるひと。(エ) せず、切りがつかず、しまりもなく、ただただおなじところを堂々巡りするだけで、それでも焦りはしない。そんな奴に決まって、聞き分けがなく、陰気にこねる。つまり、「ぐずる」。そんな奴は、「ぐずぐず」とていねいに言うより、「ぐず」(愚図)と一言呼び捨てにしたい。

そんな「ぐず」は御免も被るけれど、しかし、なにかある誘惑に引きずられ、「いけない」と思いながらぐいぐい吸い込まれてゆくさま、あるいは、このまま行けばもう引返しようがないとわかっている、その連れてゆかれる先、いつてみれば法悦の予感に怯えながら、しかしそれについて c 抗いえず (オ) 引きずられ、すでになかば放心し恍惚に包まれている、そうしたひとの姿は掛け値なしにエロティックである。

そうしたエロティックとは別に、ここにもうひとつ、(オ) 引きずられるのではなく、ぐずぐずとごごに立ち止まる権利というものがあるのではないだろうか。すかっと決断するのではなく、あえて決断を (オ) 引き延ばす「ぐずり」の権利と言ってもよい。

いまの世の中、何もかもがつるつる滑る。まるで、ミラーボールの反射のように、あるいはV健ボウ症にかかったかのように、どんな事件やW不シヨウ事も起こればすぐに早すぎる反応をし、そしてみずから息せき切っておこなったその反応じたいもすぐ忘れる。1 あらゆる出来事が記号として消費されるだけで流れていってしまうと言ったらいいのか、滑りがよすぎて、身に引つかかるといことがない。つるつる、すべすべ、さらさら。それは皮膚の表面のことではなく、世界の表面そのものことだ。

まるで条件反射のように、メディアが伝える情報に即座に反応してしまうひとびと(そう、メディアはあまりにも触覚的である)、そんな視聴者のd憤りやX落タンには奥行きがない。いちど内に含んで反芻するという時間の澱がない。まるでじぶんの存在は表面にこそあるとばかりに、内で、ああだ、こつだとY工体をうかがう前に、その感触にとっさに反応してしまう。いや、2 感触を味わうより先に、情報に、そして情報への反応の様式に感応してしまうと言ったほうが正確だ。

何ごとともつるんと滑ってしまう社会。村上龍の小説『ラブ&ポップ』に出てくる女子高校生は、テレビで『アンの日記』のドキュメンタリーを見終わり、心を「グシャグシャ」にしたまま寝入り、翌朝になって「心がすでにツルンとしている」ことに驚く。「ベッドに入るまでは、いつかオランダに行ってみようとか、だから女の子の生理のことを昔の人はアネっていうのか、とか、自由に外を歩けるって本当は大変なことなんだ、とかいろいろ考えて心がグシャグシャだった。それが翌日には完全に平穩になって、シャンプーできれいに洗い流したみたいに、心がツルンとして、『3 あの時は何がおかしかったんだ』と自分の中で『何が、済んだ』ような感じになってしまっているのが、不思議で、イヤだった」。

この「イヤ」を、この女子高校生は、「やりたいことや欲しいものは、そう思ったその時に始めたり手に入れようと努力しないと必ずいつの間にか自分から消えてなくなる」というふうにみずからかき消すべきではないのではないか。4 これ、イヤ」と言ってもつとぐずるべきではないのか。

「教育再生」論議や地域でのめめ事の解決から、安楽死をはじめとする生命倫理の議論まで、わたしたちは「解決」を急ぎすぎているようにおもう。急がないと危ういことも事実ではあるにしても、議論としては急ぎすぎているようにおもう。事は重いにしても、そのZサク練した問題への処し方に心底、納得できるまで、(カ) 迷う権利、最終決定できないままぐずぐずと悩むことを保障されるような権利というものが、いま必要なのではないか。

人間の、人間としての基礎にかかわることがらは、すぐには答えの出ぬものが多い。人間にはついに答えられないもの、あるいは答えが出ぬままそれを問いつづけることに意味のあるものも少なからずある。じぶんの人生の意味、じぶんが存在することの意味などというのは、その最たるものである。ここでは、すかっと噛み切れる論理より、いつまでも噛み切れない論理のほうが、重い。滑りのよい言葉には、かならず、どこか問題を逸らせている、あるいはすり替えているところがある。ぐずぐずしながらも、逡巡の果てにやがてある決断にたどり着く、いやたどり着くことをいやでも強いられる。5 その時間を削ぐことだけはしてはならないとおもう。そ

の時間こそ人生そのものなのだろうから。

鷲田清一『くずくず』の理由」による

注 『アンネの日記』一九四七年刊。ユダヤ人少女アンネ・フランクの日記。ナチスドイツ占領下のアムステルダムで屋根裏に隠れ住んだ一家の生活と自己を描く。

問一 傍線部 a～e の読みとして適当なものをそれぞれ選んで記号で答えよ。

解答番号 a ① b ② c ③ d ④ e ⑤

- | | | | | | | |
|---|----|-------|--------|--------|--------|------|
| a | 晒す | ①さらす | ②かもす | ③くつがえす | ④ひるがえす | ⑤さとす |
| b | 被る | ①こだわる | ②あやまる | ③こうむる | ④のこる | ⑤こねる |
| c | 抗い | ①さからい | ②かまい | ③まかない | ④あらがい | ⑤かばい |
| d | 憤り | ①いかり | ②いきどおり | ③ふきだまり | ④とどこおり | ⑤くくり |
| e | 逸ら | ①そら | ②はやら | ③つら | ④やら | ⑤すがら |

問二 傍線部 V W X Y Z の熟語の中のカタカナの部分の漢字として適当なものをそれぞれ選んで記号で答えよ。

解答番号 V ⑥ W ⑦ X ⑧ Y ⑨ Z ⑩

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------|----|----|----|----|----|---|-------|----|----|----|----|----|
| V | 健ボウ症 | ①冒 | ②亡 | ③乏 | ④坊 | ⑤忘 | W | 不ショウ事 | ①肖 | ②精 | ③祥 | ④詳 | ⑤承 |
| X | 落タン | ①端 | ②嘆 | ③担 | ④旦 | ⑤胆 | Y | 工体 | ①得 | ②獲 | ③恵 | ④柄 | ⑤絵 |
| Z | サク綜 | ①柵 | ②索 | ③冊 | ④錯 | ⑤策 | | | | | | | |

問三 () ア～カに入る言葉として適当なものを選んで記号で答えよ。ただし、同じ記号の () には同じものが入る。解答番号 ア ⑪ イ ⑫ ウ ⑬ エ ⑭ オ ⑮ カ ⑯

- ①はきはき ②つらつら ③いらいら ④のろろ ⑤ずるずる ⑥ぶつぶつ

問四 傍線部 1「あらゆる出来事が記号として消費されるだけで流れていってしまう」の説明として最も適当なものをお次①～④の中から選んで記号で答えよ。解答番号 ⑰

- ①世の中の出来事がメディアに次々と流れていき、享受する人々は誰にとっても共通の情報や知識としてとらえ、個々の人にとつての意義や意味や価値などを確かめる事がない。
②世の中の出来事が次々にメディアの上を流れるが、そのほとんどは情報として価値の低いもので、人間の精神には影響を与えず、交通標識や交差点の信号程度にしか意識されない。
③メディアの上を流れる世の中の出来事は、メディアによる事実の選択と解釈というフィルターを通過しているために報道の中立性や客観性については信頼に足るものはない。
④メディアの上を流れる世の中の出来事は、それを享受する人々にとつては地図の記号や元素記号のように抽象化してとらえられるため、個々の人には具体的な印象としては残らない。

問五 傍線部 2「感触を味わうより先に、情報に、そして情報への反応の様式に感応してしまう」の説明として最も適当なものを次①～④の中から選んで記号で答えよ。解答番号 ⑱

- ①あまりにも早いメディアの反応に、周章狼狽するだけで情報の中味を確認する暇もない。
②メディアの流すことが情報のすべてだと虚心坦懐に受け止め、信念がなく感情的に反応する。
③情報に対しては疑心暗鬼になり、隠された事実がもつとあるにちがいないと思ひこむ。
④メディアに付和雷同し、また、周囲の人々と同じような反応をして独自の考えや反応がない。

問六 傍線部 3「あの時」の説明として最も適当なものを次①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ⑲

- ①テレビで「アンネの日記」のドキュメンタリーを見終わった直後
②テレビで「アンネの日記」のドキュメンタリーを見終わった翌朝

- ③ ナチスドイツがヨーロッパで横暴を極めユダヤ人を迫害した時代
- ④ 女の子の生理のことを、理由も分からずにアンネと言っていた昔

問七 傍線部4「これ、イヤ」と言ってもとべず、へきではないのか。」に現れた筆者の考えとして最も適当なものをお次①～④の中から選んで記号で答えよ。解答番号20

- ① やりたいことや欲しいものは、そう思った瞬間に行動しないといつの間にか自分から消えてなくなること嫌がつてあくまでも自分の気持ちや希望にこだわらるべきだ。
- ② 『アンネの日記』のドキュメンタリーを見た時の衝撃をすぐに忘れてしまうような自分を嫌悪し、深く考えるべき問題にこだわり続ける自分であるべきだ。
- ③ 民族間の対立や民族の迫害などの複雑で深刻な問題についてはなかなか理解できないので、個人が拙速に結論を出すのではなく、問題の背景を十分知るべきである。
- ④ 歴史上繰り返されてきた人種差別や民族の迫害・虐殺などはこれからの時代には決してあつてはならないことだとして若い人々こそが拒絶しなければならない。

問八 傍線部5「その時間を削ぐことだけはしてはならない。」に込められた筆者の思いとして最も適当なものを次①～④の中から選んで記号で答えよ。解答番号21

- ① 人間存在の根元にかかわることはすぐには答えの出ないものが多く、考え込む時間は無為に過ぎていくが、実はその時間が人生そのものであるので無為でも良しとする。
- ② 安楽死をはじめとする生命倫理の複雑で重要な問題については最良の方法が見つかるまで試行錯誤を繰り返しながらじっくり構えて、拙速という非難を浴びないようにしたい。
- ③ 人間存在の意義や生きる意味などの重要な問題は容易に答えが出るはずもなく、言葉で明快に解答を出したものは眉唾もので、結論を出すまで躊躇する事には重要な意味がある。
- ④ 複雑な西アジアの情勢を考えてみると、ユダヤ人への迫害問題は現在でも解決したとはいえないが、軍事力によって一挙に解決するのでなく時間をかけた和平が望まれる。

二 次の文章は、正岡子規と夏目漱石と現代の俳人坪内稔典の三人で、夏目漱石の俳句についてバーチャル座談会を催しているという設定になっている。よく読んで後の問いに答えよ。

A 凧こがらしに裸で御はす仁王哉

稔典 明治二十八年十月十九日に、子規さんは松山を発つて東京に向かいました。途中で神戸や奈良に寄りますが。

子規さんが発つた後、漱石さんに変化があります。かなりまとまった句稿を子規さんに送って批評を求めようになるのです。今、判明しているものもとても早い句稿は、前に見た「九月二十三日aサン策途上口号三十二」句です。そして、十月何日かに四十六句、十月末にはまた四十二句を送っています。合計百二十句ですが、すごい熱中ぶりですね。

今回の句は十月何日かの四十六句のbボウ頭にあります。

子規 「裸で御はす」は「言わずもがな」だなあ。作者はここが得意なのだろうが。

漱石 そうだよ。凧と裸の仁王を取り合わせてみた。

うん。分かるのだけれど、「凧に仁王」と言うだけで裸で凧に立ち向かっている仁王さまが目には浮かぶよ。それを、さかしげに「裸で御はす」と言ったところがだめだよ。

それに、強い北風の凧と仁王を取り合わせるの、君にしたらやや「陳腐」じゃないかね。

稔典 子規さんの『分類俳句全集』で「仁王」の項目を見ると、

凧やうんと仁王の力足 菊 居

が出ています。凧に吹かれて踏ん張っている仁王像ですが、これ、よく似ていますね。

子規 似てる、似てる。この句も「うんと」が余分だよ。

稔典 Ⅲ作者が自分の思いを述べると、さかしらで余分になるのですね。

漱石 どうもそのようだね。では、子規君。次の二句はどっちがいいかね。

吹き上げて塔より高き落葉かな

五重の塔吹き上げられて落葉かな

子規 動きが目に見える前の句だね。もつとも、(B)と言って比較するよりも、(C)と言って位置を示す方が落ち葉の動きがはつきりするよ。

漱石 ふーん、微妙な意見だが、実は、君は昔も今ののように直したのだよ。

稔典 漱石さんは句稿で、やはりこの二つを並べ、「何レヲ存セン」、すなわち、どっちを残したらいいだろう、と問いかけていますね。

今、ふと思ったのですが、後の句もおもしろいですね。「五重の塔吹き上げられて」と来ると、一瞬、(D)が吹き上げられて揺れた感じがする。その錯覚がおもしろい。

漱石 その鑑賞はおもしろい。でも、これ、(E)のことを言おうとしているのだから、表現が未熟なのだろうね。

坪内稔典『俳人漱石』による

問一 傍線部aサン、bボウの漢字を含む熟語として最も適当なものを次①～⑨の中から選んで記号で答えよ。解答番号はa [22] b [23]

- ①ボウ険小説 ②サン寒四温 ③ボウ若無人 ④サン勤交代 ⑤権ボウ術数
- ⑥自画自サン ⑦自ボウ自棄 ⑧解ボウ所見 ⑨雲サン霧消

問二 Aの句の季語として最も適当なものを次①～⑤の中から選んで記号で答えよ。解答番号は [24]

- ①凧 ②裸 ③御はす ④仁王 ⑤哉

①春 ②夏 ③秋 ④冬 ⑤新年

Aの句の季節として最も適当なものを次①～⑤の中から選んで記号で答えよ。解答番号 [25]

問三 傍線部Iの「言わずもがな」、IIの「陳腐」のこの文章での意味として最も適当なものを次①～⑤の中からそれぞれ選んで記号で答えよ。

I 言わずもがな

解答番号 [26]

- ①言う値打ちもない ②言葉より行動で示す ③言わない方がいい ④言葉では表現しにくい ⑤心を悩ます

II 陳腐 解答番号 [27]

- ①気が利いていない ②斬新である ③めったにないほど良い ④ありふれている ⑤複雑な言い方である

問四 傍線部IIIの「作者が自分の思いを述べると、さかしらで余分になるのですね。」の説明として最も適当なものを次①～④の中から選んで記号で答えよ。解答番号 [28]

- ①風に立ち向かっている仁王を表現するなら「字足らず」になってもやむを得ないということ。
- ②仁王様と凧という組み合わせはよくある風景で誰が詠んでも似ている句になるということ。
- ③「うんと」という言葉は俳句には釣り合わないので必要な言葉だと感じられるということ。
- ④作者が思いを句の中で説明してしまうと、賢さをひけらかすようで嫌みになるということ。

問五 空欄() B、C、D、Eに入る言葉として最も適当なものを次①～⑤の中から選んで記号で答えよ。解答番号 B [29] C [30] D [31] E [32]

- ①仁王 ②高き ③上の ④落ち葉 ⑤どっち ⑥五重の塔

問六 次にあげる人物のうちで夏目漱石の死後にも活躍した人は何人いるか。記号で答えよ。解答番号 [33]

- ①一人 ②二人 ③三人 ④四人 ⑤五人 ⑥六人 ⑦七人

(人物名)

川端康成 樋口一葉 高村光太郎 太宰治 芥川龍之介 谷崎潤一郎 尾崎紅葉

三 次のア～ケの熟語の□の中に漢字を入れて三字熟語として完成させよ。答は後の漢字から選び記号で答よ。

- | | | | | | | | | |
|-------|------|----|-------|------|----|-------|------|----|
| ア 居丈□ | 解答番号 | 34 | イ 門□漢 | 解答番号 | 35 | ウ 下□評 | 解答番号 | 36 |
| エ □輪際 | 解答番号 | 37 | オ 未曾□ | 解答番号 | 38 | カ 摩□楼 | 解答番号 | 39 |
| キ □眼鏡 | 解答番号 | 40 | ク 日□見 | 解答番号 | 41 | ケ 仏頂□ | 解答番号 | 42 |

- ①外 ②白 ③面 ④高 ⑤天 ⑥有 ⑦金 ⑧和 ⑨馬

四 次の各文の(a)～(j)の中に後の語群の中からそれぞれ選んで慣用句として完成させよ。

- 解答番号 a 43 b 44 c 45 d 46 e 47 f 48 g 49 h 50 i 51 j 52

- | | | | | | | |
|-----------|------------------|------|------|-----|------|-----|
| (a)を振るう。 | 思い切った整理・縮小などをする。 | ①長刀 | ②鉞 | ③腕 | ④快刀 | ⑤大鉞 |
| (b)が割れる。 | 隠していた悪事がばれる。 | ①面 | ②勘 | ③尻 | ④額 | ⑤壁 |
| (c)を濁す。 | いい加減にその場をごまかす。 | ①酒 | ②お茶 | ③舌 | ④耳 | ⑤清水 |
| (d)を脱ぐ。 | 相手に及ばないことを潔く認める。 | ①袴 | ②靴 | ③草鞋 | ④兜 | ⑤一肌 |
| (e)を預ける。 | いっさいをその人に任せる。 | ①下駄 | ②家族 | ③証文 | ④仏壇 | ⑤印鑑 |
| (f)を巻く。 | ひどく驚いたり感心したりする。 | ①しつぽ | ②筵 | ③簾 | ④舌 | ⑤糸 |
| (g)をあかす。 | 出し抜いてあつと言わせる。 | ①タネ | ②鼻 | ③夜 | ④素性 | ⑤胸 |
| (h)を入れる。 | 第三者が異議を差し挟む。 | ①わび | ②横やり | ③朱 | ④気合い | ⑤一札 |
| (i)を失う。 | 驚きや恐れから青ざめる。 | ①肝 | ②髪 | ③花 | ④血 | ⑤色 |
| (j)に衣着せぬ。 | 遠慮せずけげなく言う。 | ①歯 | ②舌 | ③耳 | ④口 | ⑤喉 |

五 次のA～Dの文は、それぞれある文学作品の始まりの部分である。それぞれについて、作品名を①～④の中から、作者名を⑤～⑧の中から選び記号で答えよ。

A 山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。

作品名解答番号 53 作者名解答番号 54

B 小田原熱海間に、軽便鉄道敷設の工事が始まったのは、良平の八つの年だった。良平は毎日村はずれへ、その工事を見物に行った。

作品名解答番号 55 作者名解答番号 56

C 石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静かにて、熾熱燈の光の晴れがましきも徒なり。

作品名解答番号 57 作者名解答番号 58

D 「ではみなさんは、そういうふう川だといわれたり、乳の流れたあとだといわれたりしていたこのぼんやりと白いものがほんとうは何かご承知ですか。」

作品名解答番号 59 作者名解答番号 60

- | | | | | |
|-----|--------|------|-------|---------|
| 作品名 | ①舞姫 | ②草枕 | ③トロッコ | ④銀河鉄道の夜 |
| 作者名 | ⑤芥川龍之介 | ⑥森鷗外 | ⑦宮沢賢治 | ⑧夏目漱石 |